

ANDY WARHOL FILM 2014

アンディ・ウォーホル映画回顧展 2014

2014年2月15日[土] ▶▶▶ 28日[金] シアター・イメージフォーラム [東京・渋谷] 主催: イメージフォーラム

2014'2'15'SAT ▶▶▶ 28'FRI

Theatre Image Forum Shibuya, TOKYO

T I M E T A B L E

	2.15 (土)	16 (日)	17 (月)	18 (火)	19 (水)	20 (木)	21 (金)
15:00	A	C	G	I	D	F	G
17:00	B	F	H	B	C	A	D
19:00	E	J	A	J	E	B	I
	2.22 (土)	23 (日)	24 (月)	25 (火)	26 (水)	27 (木)	28 (金)
15:00	H	D	F	G	B	A	F
17:00	I	G	C	A	D	H	C
19:00	J	B	H	F	J	I	E

A=イート+キス [85分] / **B**=スリープ+エンパイア [84分] / **C**=ヘンリー・ゲルツァラー [90分] / **D**=ビューティー #2 [66分]
E=チェルシー・ガールズ [210分] / **F**=ブロー・ジョブ+ヴィニール [99分] / **G**=マイ・ハスラー [67分]
H=ファニー・タ・カストロの生涯 [65分] / **I**=ヌード・レストラン [95分] / **J**=ロンサム・カウボーイ [110分]

特別鑑賞券1回券(1200円)・4回券(4000円)
劇場窓口にて販売中!

チケットぴあ:1回券[Pコード 465-307]
 当日一般1500円/学生1200円/小・中・高・シニア・会員1000円
 ※4回券は複数名使用不可、特別鑑賞券は2月14日(金)までの販売となります。

[シアター]
イメージフォーラム
 自由席・定員入替制/整理券制
 TEL.03-5766-0114 www.imageforum.co.jp



●JR渋谷駅より徒歩8分。宮益坂上がり、青山通り、渋谷2丁目スターバックス脇、右入る。

[シアター・イメージフォーラム会員割引のご案内] 年会費2000円で1年間どの映画も1000円で観られる1年延長の更新料は1000円 ※窓口にてお申し込みいただけます。

ANDY WARHOL FILM 2014

EAT / KISS / SLEEP / EMPIRE
 HENRY GELDZAHLER / BEAUTY #2
 CHELSEA GIRLS / BLOW JOB / VINYL
 MY HUSTLER / THE LIFE OF JUANITA CASTRO
 NUDE RESTAURANT / LONESOME COWBOYS

2014'2'15'SAT ▶▶▶ 28'FRI

Theatre Image Forum Shibuya, TOKYO



photo by Gretchen Berg

アンディ・ウォーホル映画回顧展 2014

2014年2月15日[土] ▶▶▶ 28日[金] シアター・イメージフォーラム [東京・渋谷] 主催: イメージフォーラム

何の理由もないんだ。あるのは本当に表面的な理由だけさ。——アンディ・ウォーホル

ANDY WARHOL FILM 2014

アンディ・ウォーホル映画回顧展 2014

2014年2月15日[土] 28日[金]

ポップ・アートの旗手、アンディ・ウォーホル

絵画、広告、デザイン、音楽、思想、風俗などさまざまなカルチャーに大きな影響を与えたアーティスト、ウォーホルの映画もまた、彼のシルクスクリーン作品とともに、当時の美術表現、映画表現に大きな衝撃を与えました。日本ではほぼ20年ぶりとなるウォーホルの代表作品13本による回顧展を2014年に開催いたします。全てオリジナル・フォーマットである16ミリフィルムでの上映になります。映写スピードも同時上映時のものを再現して上映。

ANDY WARHOL FILM 2014 PROGRAM

E (85分) 15⊕・15:00 / 17Ⓜ・19:00 / 20Ⓢ・17:00
25Ⓢ・17:00 / 27Ⓢ・15:00

『イト』 EAT
1963年/31分/16ミリ/モノクロ/サイレント/18FPS
出演: ロバート・インディアナ
現代美術家のロバート・インディアナ(新宿アイランドタワーに設置されている彫刻作品「LOVE」が有名)が、マッシュルームを食べるところをフィックス・カメラが延々と撮影したサイレント作品。食べるといふ行為の繰り返し以外にはほとんど変化がなく、途中でネコが画面に入ってくるのが最も劇的な出来事。毎秒24コマ撮影で16コマ映写(サイレント映画のスピード)のため、時間が引き延ばされ、幻覚的な印象を与える。オリジナルは45分というが、修復・保存されているプリントは31分。

B (84分) 15⊕・17:00 / 18Ⓢ・17:00 / 20Ⓢ・19:00
23Ⓢ・19:00 / 26Ⓢ・15:00

『スリープ』 SLEEP
1963年/42分(短縮版)/16ミリ/モノクロ/サイレント/18FPS
出演: ジョン・ジョルノ
ファウンド・フリーズ詩人ジョン・ジョルノ(ウォーホル、ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズと恋人関係だったと言われている)の様々な寝姿を延々6時間に渡って映し出す。ウォーホルは何本かの100フィート巻きのフィルムに撮影した“アクション”を繰り返しプリントすることで、その全体を引き伸ばして見せる。その結果、我々の前には静止したイメージが現れることになる。この映像はシルクスクリーン作品でもよく知られている。

D (66分) 19Ⓢ・15:00 / 21Ⓢ・17:00
23Ⓢ・15:00 / 26Ⓢ・17:00

『エンパイア』 EMPIRE
1964年/42分(短縮版)/16ミリ/モノクロ/サイレント/18FPS
ウォーホル映画のなかでもっとも伝説的な作品『エンパイア』は、1964年6月25日、午後8時から翌日の夜明けにかけて、エンパイア・ステート・ビルと向かい合うタイム・ライフ・ビル44階(一説では41階)から撮影された。ウォーホル映画では、「現実の時間」を継続的に映すという新たな映画的時間の感覚を通して、アクションが洗練される。サイレント作品ではあるが、長回しで撮るため特別なカメラが使用され、その操作を知っていた友人の映画作家ジョナス・メカスが撮影者となった。このカメラの導入によってウォーホル映画はサイレント時代からサウンド時代へ入っていく。不動の物体を不動のカメラが写し続ける(しかも8時間も!)という、初期ウォーホル映画のコンセプトの究極というべき前代未聞の「モーション・ピクチャー」である。



スリープ



エンパイア

A (85分) 15⊕・15:00 / 17Ⓜ・19:00 / 20Ⓢ・17:00
25Ⓢ・17:00 / 27Ⓢ・15:00

『イト』 EAT
1963年/31分/16ミリ/モノクロ/サイレント/18FPS
出演: ロバート・インディアナ
現代美術家のロバート・インディアナ(新宿アイランドタワーに設置されている彫刻作品「LOVE」が有名)が、マッシュルームを食べるところをフィックス・カメラが延々と撮影したサイレント作品。食べるといふ行為の繰り返し以外にはほとんど変化がなく、途中でネコが画面に入ってくるのが最も劇的な出来事。毎秒24コマ撮影で16コマ映写(サイレント映画のスピード)のため、時間が引き延ばされ、幻覚的な印象を与える。オリジナルは45分というが、修復・保存されているプリントは31分。

C (90分) 16Ⓢ・15:00 / 19Ⓢ・17:00
24Ⓢ・17:00 / 28Ⓢ・17:00

『ヘンリー・ゲルツァラー』 HENRY GELDTZAHLER
1964年/90分/16ミリ/モノクロ/サイレント/18FPS
出演: ヘンリー・ゲルツァラー
著名なキュレーターであり、早い時期からウォーホルを擁護してきたヘンリー・ゲルツァラーがソファで大きなシガレットをくわえている。抑制された動きをスローモーションで映写するミニマルなポートレイト。この作品は、映画メディアの探求と被写体に対する決然とした描写において、ウォーホルのキャンバス・ポートレイト作品に匹敵すると言える。

D (66分) 19Ⓢ・15:00 / 21Ⓢ・17:00
23Ⓢ・15:00 / 26Ⓢ・17:00

『ビューティー #2』 BEAUTY #2
1965年/66分/16ミリ/モノクロ
出演: イーディ・セジウィック、ジーノ・ベスチオ、(画面外) ジェラード・マランガ、チャック・ウェイン
ファッション・モデルであり「ファクトリー」のスーパースターの一人だったイーディをフィーチャーした作品。ウォーホルは65年に大学をやめたばかりのイーディと出会って、半年ほど彼女を主演に熱心にサウンド映画を作り続けた。当時、イーディとアンディはいつも一語で、両性具有的でしかもセクシーな彼女はアンディの分身のようだった。60年代ニューヨークの典型型ヒロインというべきイーディについては映画『ファクトリー・ガール』(2006)や伝記『イーディ '60年代のヒロイン』(邦訳・筑摩書房)で描かれている。イーディが自分のアパートメントで、下着姿でベッドの上で話したりウォッカを飲んだりボーイフレンドと抱き合ったりするのを固定カメラが撮り続ける。彼女の二人のボーイフレンド、ビューティNo.1(チャック・ウェイン)とビューティNo.2(ジーノ・ベスチオ)をめぐる三角関係がテーマで、オフ(画面外)の声とイーディのやり取りは映画的にも興味深い。



ビューティー #2



キス



キス

E (210分) 15⊕・19:00 / 19Ⓢ・19:00
28Ⓢ・19:00

『チェルシー・ガールズ』 CHELSEA GIRLS
1966/195分(上映時間210分)/2面スクリーン/カラー+白黒
出演: ニコ、マリー・メンケン、インターナショナル・ヴェルヴェット、イングリッド・スーパースター、オンディーヌ、エリック・エマソン、メアリー・ウォロノフ他
ウォーホル映画の中で最も商業的に成功した「チェルシー・ガールズ」は、2面マルチスクリーンで映写に3時間45分要する大作。チェルシー・ホテルの客室を相互に関連なく並べていく上映は巨大なカオスに観客を引き込む。それはさながらウォーホル版の現代社会の縮図だ。2つのスクリーンの映像は、お互い微妙にシンクロするように配置されている。映画的な物語と覗き見のカメラが、スマートに共存する作品。



G (67分) 17Ⓜ・15:00 / 21Ⓢ・15:00
23Ⓢ・17:00 / 25Ⓢ・15:00

『マイ・ハスラー』 MY HUSLER
1965年/67分/16ミリ/モノクロ
出演: ポール・アメリカ、エド・フッド、ジョン・マクダーモッド他
この作品以降、ウォーホル映画では日常生活の1シーンから物語が掘り起こされる。ここでは浴室における二人の男の間の睦事とグルーミングが覗き的に記録されている。カメラは観客と“アクション”の間にそびえる透明な壁となり、私的な儀式と二人の親密な関係性が持つエロチックなパワーを表出させる。カメラ撮影はウォーホル自身が行っている。



マイ・ハスラー

II (65分) 17Ⓜ・17:00 / 22Ⓢ・15:00
24Ⓢ・19:00 / 27Ⓢ・17:00

『フアニータ・カストロの生涯』 THE LIFE OF JUANITA CASTRO
1965年/65分/16ミリ/モノクロ
脚本: ロナルド・タヴェル/出演: マリー・メンケン、エレクトラ、ウォルド・ディアス・バラード他
ジャック・スマイスやロナルド・タヴェルらのキャンプ感覚と不条理劇の影響が見られる作品。フィデル、ラウル、フアニータ・カストロやチェ・ゲバラを登場させ、キューバ革命のカストロ家まつわる噂をもとに、歴史を再記述しようとする。B級映画の“国境の南”的設定は、ウォーホルのハリウッドに対する憧れであり、ポップ・カルチャーの紋切り型と戯れるためにセクシャリティーと演劇性を利用している。ウォーホルの商業映画への移行を示唆する作品とも言われている。

I (95分) 18Ⓢ・15:00 / 21Ⓢ・19:00
22Ⓢ・17:00 / 27Ⓢ・19:00

『ヌード・レストラン』 NUDE RESTAURANT
1967年/95分/16ミリ/カラー
出演: ヴィヴァ、テイラー・ミード、ルイス・ウォルドロン、ジョー・ダレサンドロ、イングリット・スーパースター他
従業員も客も裸の不思議なレストラン。パロウズの「裸のランチ」のもじりらしいこのタイトルの映画では二人のスーパー・スター、ヴィヴァとテイラー・ミードを中心にレストランで男女が対話を交し、モノローグをする。ヴィヴァはボルノグラフィーについてのスカトロジカルなパロディーにおける触媒兼ノイズとしての役割を見事に果たしている。



ヌード・レストラン

F (99分) 16Ⓢ・17:00 / 20Ⓢ・15:00 / 24Ⓜ・15:00
25Ⓢ・19:00 / 28Ⓢ・15:00

『ブLOW・ジョブ』 BLOW JOB
1963年/35分/16ミリ/モノクロ/サイレント/18FPS
あおり気味のとらえられた青年の顔。時折見せる苦痛と恍惚に満ちたその表情。ホモセクシュアルなエロティシズムを感じさせるその映像はウォーホルの死後もさまざまな写真に引用され、ウォーホル初期映画の代表作の1つと言われる。作品タイトルが意味している行動は、それが実際に行われているにしろ、フレームの外での事でありその真偽は、観客の想像力に委ねられている。

V (64分) 16ミリ/モノクロ
脚本: ロナルド・タヴェル/出演: ジェラード・マランガ、イーディ・セジウィック、オンディーヌ他

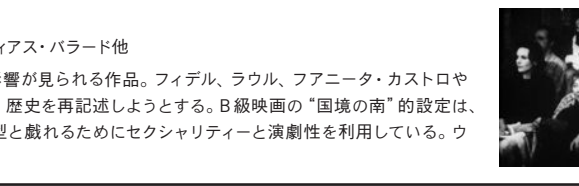
ウォーホルの第2期の映画は、より演劇的で、性のタブーの探求をおこなう彼の“スーパースター”たちをフィーチャーしている。イーディ・セジウィックを一夜にしてスーパースターにした伝説の映画としても有名。後にキューブリックが映画化したアンソニー・バージェスの小説『時計じかけのオレンジ』の最初の映画化。一応のシナリオはあるが右端に座ってそれを見ているイーディがそのすべてを台無しにしてしまったSM的な室内劇の傑作。“アクション”はカメラが切り取るフレーム内を循環し、それぞれのシーンは、身振りが持つ情感についての緻密に組織化された演劇となっている。



ブLOW・ジョブ

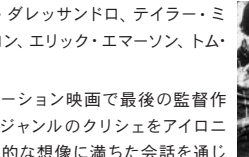


ヴィニール



J (110分) 16Ⓢ・19:00 / 18Ⓢ・19:00
22Ⓢ・19:00 / 26Ⓢ・19:00

『ロンサム・カウボーイ』 LONESOME COWBOYS
1967年/110分/16ミリ/カラー
出演: ヴィヴァ、ジョー・ダレサンドロ、テイラー・ミード、ルイス・ウォルドロン、エリック・エマソン、トム・ホンバーツ他
ウォーホル初のロケーション映画で最後の監督作品。役者たちは西部劇ジャンルのクリシェをアイロニカルに演じ、メロドラマ的な想像に満ちた会話を通じてキャンプ感覚を全面に押し出した。ヴィヴァとテイラー・ミードがゴーストタウンで無法者のカウボーイの団と会う。彼女はカウボーイに犯されそうになるが、むしろ男たちを誘惑する。「ポール・モリセイによるウォーホル映画」の常連で、ポロフチャクの『夜明けのマルジュ』やセルジュ・ゲンズブールの『ジュテーム・モワ・ノン・プリュ』にも出演していた美少年ジョー・ダレサンドロのデビュー作でもある。



ロンサム・カウボーイ